No.25
2021.8.1
JA 全農
耕種総合対策部

Z-GIS 情報

Z−GIS を GAP 管理で活用しよう！

GAP とそのメリットについて

近年、GAP(Good Agricultural Practice)への注目度が高まっています。農水省は GAP を「農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組み」と定義しており、GAP を行うことで生産管理の向上、効率性の向上、農業者自身や従業員の経営意識の向上につながるとしています。また、GAP が正しく行われていることを第三者機関が審査・証明する「GAP 認証」を取ることで、農家にとっては販路拡大時に取引先に選択されやすくなるメリット、取引先にとっては安心して使用できる、顧客に安全性を説明しやすいといったメリットがあります。

GAP 管理について

上記のメリットの一方で、GAP の実施は煩雑な管理を伴います。具体的には、まずは生産に使用するすべての圃場や施設を明確にすることからはじまり、それぞれのリスク評価・マニュアル作成を行い、管理記録を残していくことが必要になります。また、GAP 認証における審査の際には地図と照らし合わせながら審査対応を行う必要があるため、GAP 管理はどうしても煩雑になってしまいがちです。

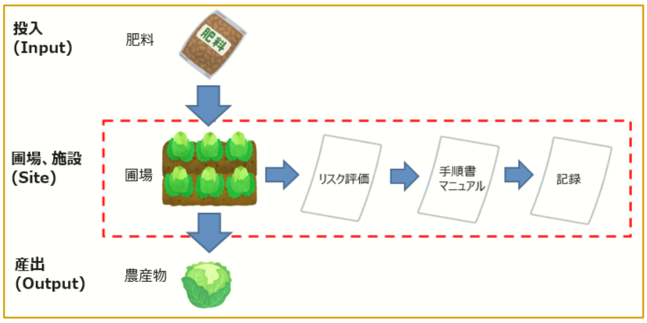

図 1:GAP 管理のイメージ

GAP 管理での Z-GIS の活用について

Z-GIS は管理の起点になる圃場や施設の情報を見える化し、Z-GIS が持つ様々な機能を用いて総合的に管理できるため、GAP 管理に最適です。GAP 管理における Z-GIS を使用するメリットとして主に以下の 3 つがあります。

① 色分け機能や補助図形、写真格納機能を用いた圃場や施設、リスクの見える化

図 2:圃場、リスク情報等を見える化したイメージ

② ハイパーリンク機能を活用したマニュアル・帳票管理

図 3:Z-GIS でのマニュアル・帳票管理のイメージ

③ Z-GIS クラウドの活用による団体認証時の団体事務局と生産者間の効率的な情報共有(栽培記録の相互共有など)

詳細な利用方法は以下の URL からマニュアル・テンプレートをダウンロードできますので、ぜひダウンロードしてお試しください！
https://z-gis.net/99/usage/gap.html